

文部科学省「地(知)の拠点(COC)整備事業」(平成25～29年度)／「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成28～31年度)＝長岡地域<創造人材>養成プログラム

## 2019長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

# 地域の人手不足と雇用のイノベーション ～就業者・求職者の視点から～

特集

地域での人手不足は中長期的な課題です。事態改善に向けて多くの事業所で生産性向上や就業環境の改善に向けた取組が進められていますが、それらは働き手の目にどのように映っているのか。企業側の視点を中心とした前年調査の続編として、就業者・求職者側の視点からの調査を加え、より総合的な考察により地域の人手不足問題に迫りました。



この地域の企業にとって人手不足の核心は何か、いかなる対応が成功企業への道なのか。有識者からの意見を交え、これらの課題を考えることが出来たのではないのでしょうか。

人手不足に関心をお持ちの、企業・行政・市民の方々など、約70名の皆様にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。感謝申し上げます。

### 記

- 1 名称 2019長岡大学地域連携研究センターシンポジウム
- 2 テーマ 地域の人手不足と雇用のイノベーション ～就業者・求職者の視点から～
- 3 時期 令和元年11月22日(金) 14:00～17:00
- 4 会場 長岡商工会議所 2階 大ホール
- 5 参加費 無料
- 6 次第

総合司会：長岡大学地域連携研究センター運営委員長／教授 小松 俊 樹

あいさつ

長岡大学長／地域連携研究センター長 村山 光 博

第1部 基調報告 『地域企業の人手不足に関する基礎調査2019』調査結果から

長岡大学教授 石川 英 樹

第2部 パネルディスカッション

テーマ：地域企業の人手不足の克服と雇用のイノベーションに向けて ～就業者・求職者の視点から～  
パネリスト

社会保険労務士法人みらいコンサルティング グローバルHR支援室 室長 安 達 翼 氏  
[月刊新潟Komachi] ニューズライングループ

株式会社ドットコム・マーケティング(新潟転職Komachi運営) 小林 拓 馬 氏  
長岡大学准教授・地域連携研究センター運営副委員長 栗 井 英 大

コーディネーター 長岡大学教授・地域連携研究センター運営副委員長 石川 英 樹

7 主催 長岡大学地域連携研究センター

後援 長岡市、小千谷市、見附市、長岡商工会議所、小千谷商工会議所、見附商工会、  
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構、  
ながおか・若者・しごと機構

(登壇者の肩書きは開催当時のものです)

## 2019・11月長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

### 主催者の開会あいさつ

長岡大学学長  
地域連携研究センター長

村山光博



本日はご多用のところ、長岡大学地域連携研究センターシンポジウム「地域の人手不足と雇用のイノベーション」にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より長岡大学の活動へのご支援とご協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

さて、長岡大学の地域連携研究センターでは、毎年の事業の一つとして地域課題をテーマにした調査研究活動を行っております。年度のはじめに重点テーマを設定し、約半年間、具体的な調査研究活動に取り組みます。そして、その調査研究の成果は毎年11月に開催するこのシンポジウムで発表することで地域へ還元させていただいております。さらに、このシンポジウムのパネルディスカッションで交わされた議論についても、翌年のセンター年報「地域連携研究」に掲載し、広く配付を行っております。

ところで、すでにご承知の通り、現在の新卒学生の就職活動の状況はまさに売り手市場となっております。学生を送り出す側の大学としては誠にありがたい状況にあるわけですが、一方、受け入れ側の企業からは、「求人を出してもほとんど応募がない」、「欲しい人材が集まらない」という声が依然として多く聞かれます。本日のテーマは昨年度と同じく「地域の人手不足と雇用のイノベーション」としております。昨年度は主に労働の需要側である企業側からのアプローチということでしたが、今年は労働の供給側である就業者と求職者の側からのアプローチを図っております。

第1部「基調報告」では、「地域企業の人手不足に関する基礎調査2019」というテーマで、本学教授の石川が、今年度の調査結果を報告いたします。つづく、第2部「パネルディスカッション」では、3名のパネリストのみなさんからご登壇をいただき、「地域企業の人手不足の克服と雇用のイノベーションに向けて」というテーマの下で議論を展開していただく予定です。

地域企業の人手不足については、とくにこの地方においてはこれからさらに深刻な問題となる可能性が高いと思いますので、その対策を考える上での参考になれば幸いです。

簡単ではありますが、以上、開会のあいさつとさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いたします。